

令和8年度

学校自己評価システムシート

(さいたま市立 与野八幡 小学校)

学校番号

085

【様式】

学校教育目標	自ら学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子 人とつながる子				
目指す学校像	児童が主体的で自律的な学びを実現する Well-Being な学校				
重点目標	1 自律的な学びの推進 2 教育相談体制の充実 3 コミュニティ・スクールの充実 4 教育環境の整備 5 教職員の指導力向上				※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価			
		年 度 目 標				年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号		現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
学びの質の向上に関する取組	1	【自律的な学びの推進】 昨年度は、子どもたちの学校評価アンケート「授業が楽しい」「授業がわかる」の肯定的回答がそれぞれ 90.3%、94.9%と高い割合が出ているものの、いずれも R6 度の結果や、R7 度の目標値を下回る結果となった。一方、全国学習調査、市学習調査ではいずれも市の平均を大きく上回る好結果を示している。今後は、子どもたちの高い基礎学力を基に、一層体験的な活動に触れさせることで、自律的、主体的、探究的な学びを充実させ、質の高い授業づくりにまい進する。	深い学びの推進	・探究的な学びのプロセスを明確化した活動を意図的に取り入れたり、ルーブリックを活用した自己評価を充実させたりして授業改善に取り組む。 ・カリキュラム・マネジメントの充実により、教科間の関連や行事・生活体験との関連を図ることで、児童の興味・関心を高めて主体的な学びへとつなげる。 ・教科等の特性に応じて ICT 機器を活用した授業を充実させる。(体育でのプレボス、遅延再生カメラの使用など) ・ICT ツールを効果的に活用し、意見交流や学習の振り返り、思考の可視化、学習履歴による個に応じた学習利用などを推進する。	・児童の学校評価での「授業が楽しい」、「授業がわかる」への肯定的回答の向上(前年度比) ・学びの指標調査での「主体的な学び」、「探究的な学び」の項目の学校平均値の向上(第 1 回<第 2 回) ・計画的な「カリマネ部会」の開催(年間 8 回以上)				
			デジタル学習基盤を活用した学びの改革	・「スポーツを科学する授業」に関するアンケートでの質問項目「ICT 機器が学習の役に立った」での肯定的回答を 90%以上 ・学びの指標調査での「デジタル学習基盤の効果的な活用」の項目の学校平均値の向上(第 1 回<第 2 回)					
心のサポートに関する取組	2	【教育相談体制の充実】 昨年度は Sola る一むでの児童管理体制の構築、スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカーによる教育相談の充実、ケース会議の実施と関係機関との連携により、児童自身、保護者との思いを共有する支援、支援体制を尽くすことができた。 児童の困り感への理解や、家庭への支援のあり方に関する研修・協議を重ね、個別最適な居場所づくり、時間づくり、指導体制づくりを確立する	施設・設備体制の工夫	・児童面談や SC、SSW の保護者相談等で利用できる相談室を整備する。 ・児童が Sola る一むを安心して活用することができる環境づくりを行うとともに、その日の時間割を自分で決めることで、計画性と見通しをもって 1 日を過ごすできるようにする。	・保護者の学校評価における項目 9、12、13 の肯定的回答を 95%以上 ・Sola る一むの移設と教育相談室の設置(1 学期中) ・Sola る一む内の利用児童ごとの時間割揭示板の整備(1 学期中)				
			関係職員の更なる連携	・Sola る一む連絡チャットや時間割揭示板を活用し、全職員が利用児童の実態やその日の学習計画を把握できるようにする。 ・日頃から情報を広く共有し、職員間で相談しやすい環境を整え、部会や学年を超えて幅広く連携し組織的に対応する。	・Sola る一む連絡チャットの活用(毎日) ・計画的な教育相談部会の実施(年間 10 回以上) ・児童理解研修の実施(4 月) ・職員集会を活用した児童情報の共有(随時) ・必要に応じたケース会議の開催(随時)				
学校づくりに関する取組	3	【コミュニティ・スクールの充実】 昨年度は学校運営協議会に代表児童が参加することで、テーマ「自分から挨拶ができる子を育てよう」についての熟議を一層充実させることができた。児童の挨拶キャンペーンにも力が入り、盛り上がりを見ることができた。 今年度は保護者、子ども、地域が一体となって取組む学校美化・環境づくりの活動を通し、大人と子どもが通じ合う場面を積極的に設け、互いが交わす挨拶に、より意味や心を吹き込んでいく。	学校運営協議会の熟議の充実	・熟議の目的を「学校・家庭・地域でつながり、八つ子を育てていく」ことに焦点化し充実を図る。 ・学校運営協議会において児童会児童が取組みをプレゼンし、地域の方々に周知する。	・協議会委員のアンケートにおいて「課題(テーマ)の設定について」、「熟議の充実について」の肯定的回答を 80%以上 ・児童会児童の学校運営協議会への参加(年 2 回)				
			ボランティア活動の推進	・家庭・地域を巻き込んだ協働の機会を創出し、児童の社会の一員としての自覚を育て、地域全体を笑顔にする心の教育を進める。	・登下校時に児童から地域の方へ進んであいさつをする活動、家庭や地域を巻き込んだあいさつキャンペーン(学期に 1 回) ・クリーン朝会への緑化ボランティアの参加(学期に 1 回) ・音楽会への学校運営協議会委員の招待(11 月)				
教育環境の整備に関する取組	4	【教育環境の整備】 昨年度は、体育館外壁、スプリンクラー、2 階校舎間通路雨漏りが、予算の関係で未解決のまま手つかずとなっている中、通路北校舎ベランダ外壁工事、2 階昇降口外壁工事、校庭砂場修繕、校庭残留杭撤去、北西部樹木選定を実施することができた。 今年度は少人数指導教室、児童会室、教材室、応接室、放送室、職員室の整備をすすめ、整った学校、清潔な学校、使いやすい学校、気持ちのよい学校を目指す。	校内清掃・整備の徹底	・昨年度、未解決の施設設備について、引き続き教育委員会と連携を図り修繕対応を進める。 ・不具合箇所を把握し、整備・修繕につなげ、けがの未然防止に努める。 ・清掃部会を中心に、校内美化において主体的に取り組む児童を育成する。 ・特別教室及び準備室における用具等の管理・整理整頓を徹底する。	・教育委員会への修繕依頼(通年) ・教職員による安全点検の実施(毎月) ・美化委員会による校内美化の状況確認と放送での全校への共有(毎月) ・掃除の時間における特別教室の担当学級の担任による見回りと整理整頓(毎日) ・特別教室及び準備室の全体配置図の作成・確認、用具へのナンバリング(1 学期中) ・けがマップを活用した危険個所の把握・共有・改善(通年)				
			掲示教育・掲示活動の充実	・校内の掲示物を充実させるとともに、掲示物の点検をして掲示物の破損、時期相応のものかどうかの確認を確実に行う。 ・歯に関する掲示物や、季節ごとの感染症についての掲示物を作成し、校内に掲示する。	・掲示物への掲出期間の明示(通年) ・掲示委員会による掲示物の作成・点検・貼り替え活動(年間 10 回以上) ・保健委員会による掲示物の作成活動(年間 10 回以上)				
教職員のキャリア形成に関する取組	5	【教職員の指導力向上及び業務管理・健康確保】 昨年度、学校評価における「ICT 機器を使った授業の工夫」の保護者からの A 評価が 42.9%で、昨年度を下回る結果となった。今年度は学習者用端末が iPad となったことと合わせ考え、ICT 活用の利便性を追究しつつ、デジタルとリアルをバランスよく扱い、児童にとって最適な学習形態を保障し児童の主体的で自律的な学びを伴走する指導の在り方を追究し、指導力を高めていく。また、職員の在校時間縮減を図り、健康確保の管理体制を構築する。	デジタルとリアルのバランスある指導の充実	・ICT と非 ICT を組み合わせた授業モデルを構築し授業デザインの改善に取り組む。	・保護者の学校評価における項目 8 の A 評価を 50%以上かつ肯定的回答を 95%以上 ・ICT 研修において授業場面をもとにした「デジタルとリアルの使い分け」を協議する研修の実施(8 月)				
			児童に伴走する指導力の向上	・学年や発達段階に応じて、児童自身が学習計画や学び方、学習形態、学習ツールを選択し、自己調整しながら学ぶ機会を増やす。	・学校課題研修におけるアドバイスグループの取組みとして、児童主体の授業を公開し、成果と課題を共有する。(各教員年間 2 回以上) ・学力向上ポートフォリオにおける学力向上策の実施状況を 8 割以上				
			業務管理及び健康確保の充実	・ノー残業デー(水曜日)の実践 ・各種休暇取得の促進 ・職員一人ひとりの業務管理のための定期的な面談の実施	・ノー残業デー(水曜日)の確実な実施 ・夏季休暇、リフレッシュ休暇の確実な取得 ・ストレスチェックの数値を全国平均より下回る。				

学 校 教 育 目 標	自ら学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子 人とつながる子
目 指 す 学 校 像	児童が主体的で自律的な学びを実現する Well-Being な学校
重 点 目 標	1 自律的な学びの推進 2 教育相談体制の充実 3 コミュニティ・スクールの充実 4 教育環境の整備 5 教職員の指導力向上

※重点目標は5つ以上の設定也可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価						学校運営協議会による評価
年 度 目 標						実施日令和8年2月26日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
年 度 目 標						次年度への課題と改善策
1	【自律的な学びの推進】 昨年度は校内研修において、個別最適な学びと協働的な学びの実践を課題の軸として取り組み、児童が自ら考え、決め、実践し、振り返るという学び方の型を体験することで、達成感や充足感、自己肯定感の育みを試み、児童の意欲や教員の手応えに一定の成果をあげることができた。 今後はさらに授業実践を積み上げ、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」の活用頻度を向上させ、児童がクラウド上に積み上げた学習履歴を再利用したり、質の高い評価基準を自ら考えたりして、学習活動に必要感をもって取り組むことを進めていく	個別最適な学びと協働的な学びの一体的推進	・ルーブリック評価を活用した授業実践 ・ICT 機器やクラウドツールを積極的に活用し、思考や学びの記録と共有を広げる指導の実践 ・さいたま市「アクティブラーニング」型授業、学びの指標「じ・し・ゃ・く」の視点を踏まえた授業の拡大	・児童の学校評価「授業が楽しい」への肯定的回答を95%以上。(R6:91.8%) ・児童の学校評価「授業がわかる」への肯定的回答を98%以上。(R6:96.9%) ・学校課題研究アンケートにおける児童の肯定的評価80%以上(新規)	・「授業が楽しい」の肯定的回答90.3%で、昨年度を下回り、目標を5割下回った。 ・「授業がわかる」の肯定的回答94.9%で、昨年度を下回り、目標を3割下回った。 ・それぞれ目標は下回ったが、達成度は9割以上であった。	A
		主体的に取組む行事活動	・学校行事や学年行事の企画・運営への児童参画 ・児童発案を中心にした委員会活動の充実	・活動内容、活動目標、運営方法、役割分担などについて、児童の話し合いを位置付け、「決める・行う」機会を設ける ・開閉会式などセレモニーにおける児童挨拶は子ども自身の言葉重視する	・1年生迎える会、いじめ撲滅スローガン、運動会スローガン、ボランティア感謝の会など、児童会の代表児童が中心となり、あいさつ等子ども自身の言葉でつくりあげ、主体的な活動に取り組んだ。	B
2	【教育相談体制の充実】 昨年度はSola ールを開設し運用を始め、児童の心身の健康を把握し早期対応する「おはようメーター」の活用を開始した。家庭と教員との教育相談をはじめ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど専門家を交えた教育相談、ケース会議を活性化させることで、子どもだけ、保護者だけ、教職員だけで悩ま抱えず、一つ一つのケースに合わせた柔軟な対応ができる体制を構築していく。	組織力の向上	・ICTを活用した毎月の教育相談・特別支援教育委員会の確実な実施 ・計画的・組織的なケース会議の実施	・計画的な委員会の実施10回以上 ・ケース会議が必要な事案の早期判断と実施及び対応による効果の診断実施	・毎月、委員会を開催し、10回実施した。 ・ケース会議を複数回実施し、教員その他SC、SSW、SAも参加し、多面的に課題対応を繰り返すことができた。	B
		心の支援の充実	・所属感と自己有用感を高めるための異学年交流によるハッチタイム及び委員会活動の充実 ・教育相談日の設定と実施 ・SC、SSWの活用の充実と職員間連携による児童対応の共有	・ハッチタイムにかかる活動感想文、委員会活動の自己評価カードでの肯定的評価 ・教育相談日の実施(月1回) ・教育相談実施保護者アンケートでの肯定的回答80%以上(新規)	・毎月の委員会活動時及び学期末時における児童の自己評価カードにおいて、児童が概ね肯定的に自己評価をすることができた。 ・個人面談日と合わせ、概ね月1回実施 ・「相談・要望への誠実な対応」の肯定的回答93.9%で、目標を14割上回った。	A
3	【コミュニティ・スクールの充実】 昨年度は開校50周年により、記念事業に絡めて地域やPTAとの協働による取組を進めた。学校運営協議会のテーマ「自分から挨拶ができる子を育てよう」を掲げ、子ども、教職員、地域、保護者、卒業生の中学生で総力を挙げ、挨拶運動に取り組むことができた。しかし挨拶運動が一過性であり、気持ちの持続や習慣の定着には至っていない。子どもたちの課題と同時に、地域、大人たちの課題であることに気付かされている。	学校運営協議会の熟議の充実	・熟議の目的を、委員一人ひとりが日頃の肌感覚、実感でいることを語り合うこと、課題解決に向かう知恵（取組み）をSSNと連携させて探り合うこと、の2点に焦点化し充実を図る。	委員対象の協議会アンケート(新規) ・「課題(テーマ)の設定について」の肯定的回答80%以上 ・「熟議の充実について」の肯定的回答80%以上	・「課題(テーマ)の設定について」において、肯定回答100%を得ることができた。 ・「熟議の充実について」において、肯定回答100%を得ることができた。	A
		SSN組織における取組の充実	・児童会を中心とし、中学校・PTA・自治会と連携したあいさつ運動の実施 ・SSN感謝の実施 ・学校ブログを通じた教育活動の発信の充実	・学校評価アンケート「教育活動をよく知っていただくために、学校公開、授業参観、ブログ更新等を適切に行っている」の肯定回答(A評価)60%以上(R6:57.9%)	・「学校公開、授業参観、ブログ更新の適切な実施」の肯定回答60.1%で、昨年度を上回り、目標を上回った。 ・PTAと協力し、「がくぶりで各種お便りを配信し、情報発信と共有を充実させた。	A
4	【教育環境の整備】 昨年度は校舎外壁の崩落があり、発見直後に立入禁止の非常線張り、市教委への報告、業者による応急処置と検査の対応へとつながった。崩落による、児童、職員、保護者すべての来校者、利用者のケガや事故を未然に防止することができた。完全な修繕には至っていないため、課題は残っている。また、校庭に打ち込まれた杭や釘の取り残しに注意を払い、職員間で複数回注意喚起をし、事故を防いだ。“Sola る一む”は個別席の充実や心を和ませる装飾などに課題が残っている。	施設・設備に関する環境整備	・教育委員会への報告・連絡・相談を継続して実施 ・教育委員会と連携した、校庭の残留杭除去のための金属探知機活用 ・教職員による計画的組織的な点検作業 ・業務担当職員と連携した計画的な環境整備作業の実施	・教育委員会への修繕依頼(通年) ・残留杭調査及び撤去の実施(1学期中) ・計画的な樹木選定作業の依頼と実施 ・教職員の計画的・組織的調査(毎月10日) ・敷地内清掃の実施と設備の軽微な補修作業の実施(通年)	・通年で依頼を実行。北校ベランダ外壁、2F昇降口外壁、校庭砂場等を修繕実施 ・校庭残留杭杭調査・撤去は2学期後半実施 ・樹木選定は校地北西道路路面樹木を3学期に剪定を実施し、電線等への干渉回避 ・教職員による計画的・組織的調査は毎月10日に実施し、都度補修作業を実施済み	B
		学習環境に関する整備	・担当教職員による購入備品希望調査 ・学校予算に照らした適正な教科等備品の購入及び適正な備品充実 ・Sola る一むの改善・充実	・購入備品希望調査(4月まで) ・備品購入(6月中) ・Sola る一むの改善(1学期中)	・備品・消耗品の購入希望調査を4月に、購入計画を5月中に取りまとめ、順次購入 ・Sola る一む内に、個別ブース、対面ブース、床敷ブース、ソファブースを整備	B
5	【教職員の指導力向上】 昨年度は学校課題研修として、研究の方向性や授業の在り方、指導や資料の妥当性について、研修全体会場で確認してきた。また教員が研究グループごとに授業を公開し合い、互いに指導や資料の有効性について協議した。各グループに様々なキャリア段階の職員を配置したことで、メンター・メンティーの関係性を生み出すことができた。さらにグループ間での授業公開をすることで、より幅広い視点による研究に仕上げていく。	学校課題研究の充実	・授業力向上のためのICT活用(クラウドツール)、実践事例の共有 ・アドバイスグループ内またはグループ間での協議、作業、公開授業の実践 ・外部講師を招聘した講話による課題研究の実践 ・学校課題研究とリンクした「歯と口の健康づくり事業」の研究授業準備	・学校評価(保護者)「ICT機器を使った授業を工夫している」の肯定回答(A回答)60%以上(R6:53.2%) ・指導力向上のための外部講師による講義受講研修の実施(夏季休業中) ・アドバイスグループによる教職員相互の公開授業(通年、一人1回以上)	・「ICT 機器を使った授業の工夫」の肯定回答42.9%で、昨年度を下回り、目標を17割下回った。(肯定的回答は87.5%) ・指導力向上のため、市教委教育研究所指導主事を招いて職員研修を実施した。 ・アドバイスグループを編制し、教員が互いに授業を見せ合う研修を、全教員1回ずつ行なった。	B
		「子どもと向き合うこと」の充実	・「おはようメーター」を活用した、児童の健康状態や気持ちの変化、学習への取組みなどの把握と細やかな支援の実施 ・「子どもと向き合う」場面の調査・研究・実践	・毎朝の「おはようメーター」の活用(通年) ・「向き合う場面」に関する研修と実践報告会の実施(各学期末)	・全学年、全校児童が「おはようメーター」を入力し、「朝の気分」「朝の元気度」「朝食」「昨晚就寝時間」のチェックをし、児童理解・生徒指導に生かした。 ・「向き合う場面がどのような場面なのか」を明らかにし、実践事例集を作成した。	B